

## (4) 持続的な森づくり推進事業（人材育成）

### 【目的】

林業技術や森林経営等の知識・ノウハウを持ち、地域の森林管理の中核を担う森林経営リーダー（若手従事者（後継者））や川上から川下までの関係者とネットワークを構築し、府内産材に関する流通等のコーディネーター役となる人材を育成し、**長期にわたる森林経営の適切な実施や府内産材の需要拡大**により、**持続的な森づくりを推進**する。

### 【事業概要】

森林経営リーダーや府内産材コーディネーターを育成するため、専門家等による講座や現地研修等を開催する。

- 事業主体：大阪府
- 事業内容等：

①府内産材コーディネーターの育成（10名）

- ・木材流通業者を対象に木材業経営についての講義を基軸に川上・川下従事者での意見交換を含めた研修を実施。
- ・研修回数：3回/年（1年で終了）[H28]

②森林経営リーダーの育成（12名）

- ・森林経営について先進的な取組みを行う林業従事者や民間企業、森林・木材に関する学識者等への講師派遣の依頼により、森林経営や施業技術、集約化プランニング等の講義や現地研修等を実施。
- ・研修回数：4回/年×3か年＝全12回[H29～R1で実施]

### 【当初事業計画】

単位（事業費）：千円

区 分	全体計画		H28		H29		H30		R1	
	人数	事業費	人数	事業費	人数	事業費	人数	事業費	人数	事業費
府内産材 コーディネーター	10	1,050	10	1,050	—	—	—	—	—	—
森林経営リーダー	12	3,150	—	—	12	1,050	12	1,050	12	1,050
合 計		4,200	10	1,050	12	1,050	12	1,050	12	1,050

注) 森林経営リーダーの育成講座は、当初、基盤づくり事業箇所34地区において地区1名体制を想定して34名を計画していたが1名で複数地区を担当する方が効果的との話があり、H28に基盤づくり事業を実施した10地区で3名が担当した実態を踏まえて12名に変更（H29.6審議会にて承認）

## (4) 持続的な森づくり推進事業（人材育成）の効果検証

### ①府内産材コーディネーターについて

#### ◆実績検証の結果

##### ○講座受講者数

	H28	全体
計 画 量	10名	10名
実 績 量	12名	12名
達 成 率	120.0%	120.0%

##### ○事業費(千円)

	H28	全体
計 画 量	1,050	1,050
実 績 量	300	300
執 行 率	28.6%	28.6%

##### ○事業内容

- ・ 木材流通業者を対象に「木材業経営」の講義を基軸に川上・川下従事者での意見交換を含めた講座を実施
- ・ 研修回数：3回/年（H28のみ）

#### 【講座の開催状況】

第1回 H29.1.28(土)

意見交換会①「川上～川下までの流通」

コーディネーター:久留米大学教授 梶原晃氏

講座「企業経営」

講師:税理士 大庭みどり氏

第2回 H29.2.25(土)

講座「建築士から見た木材利用」

講師:(株)HTAデザイン事務所・M's建築設計事務所

講座「工務店・木材店から見た木材利用」

講師:(株)東野木材店・山忠木材(株)

意見交換会②「木材流通における今後の展望」

コーディネーター:久留米大学教授 梶原晃氏

第3回 H29.3.18(土)

意見交換会③「木材流通における今後の展望」

コーディネーター:久留米大学教授 梶原晃氏

#### ◆自己評価

○事業費の執行率28.6%に対し、講座受講者数の実績は計画人数10名に対し12名であり、講座の開催回数は計画通り3回実施したことから、十分な実績であったと判断できる。

## (4) 持続的な森づくり推進事業（人材育成）の効果検証

### ②森林経営リーダーについて

#### ◆実績検証の結果

##### ○講座受講者数

	H29	H30	R1	全体
計画	12名	12名	12名	12名
実績	17名	17名	17名	17名
達成率	141.7%	141.7%	141.7%	141.7%

12名で計画していたが、事業体との話し合い「若手、その次の経営リーダーも育成したい」という意向を踏まえ、17名の受講者で実施した

##### ○事業費(千円)

	H29	H30	R1	全体
計画	1,050	1,050	1,050	3,150
実績	733	609	1,767	3,109
執行率	69.8%	58.0%	168.3%	98.7%

##### ○事業内容

- ・森林経営について  
先進的な取り組みを行う林業従事者や民間企業  
森林・木材に関する学識者等を講師に招き  
「森林経営や施業技術、集約化プランニング」  
などの講義、現地研修を実施
- ・研修回数：4回/年×3か年＝全12回（H29～R1）

#### 【講座の開催状況】

##### H29年度

- 第1回 H30.1.23 講演「木の価値を高めて林業を元気にする」  
講師：林材ライター 赤堀楠雄氏  
意見交換会「川上から川下までの流通について(1)」  
コーディネーター：久留米大学教授 梶原晃氏
- 第2～4回 H30.3.22, 23, 24  
講習「林業架線作業主任者免許試験の受験準備講座」  
講師：静岡県林業技術者協会副会長 天野忠俊氏

##### H30年度

- 第1回 H30.10.11 現場研修「葉樹専門市場（岐阜県各務原市）」  
現地説明：平野木材(株)社長 平野健一氏
- 第2回 H30.10.12 現場研修「木曾ひのき林（長野県上松町）」  
現地説明：林野庁中部森林管理局職員
- 第3回 H30.11.14 講習「林業架線作業主任者免許試験の受験準備講座」  
講師：静岡県林業技術者協会副会長 天野忠俊氏
- 第4回 H31.3.25 講演「育成林からの木材生産・販売にむけて」  
講師：(株)山長商店代表取締役会長 榎本長治氏  
意見交換会「川上から川下までの流通について(2)」  
コーディネーター：久留米大学教授 梶原晃氏

##### R1年度

- 第1回 R1.11.19 講習「林業架線作業主任者免許試験の受験準備講座」  
講師：静岡県林業技術者協会副会長 天野忠俊氏
- 第2回 R1.12.5 講習「林業機械を用いた架線集材作業講習」  
講師：奈良県森林組合連合会職業訓練指導員 中井理氏
- 第3回 R2.1.23 実地研修「スイングヤーダを用いた架線集材作業実地研修」  
講師：レンタルのニッケン 林野一樹氏
- 第4回 R2.3.30 意見交換会「森林経営講座成果報告会」

#### ◆自己評価

- 事業費について、R1はスイングヤーダのレンタル料等で経費が嵩んだが、**通算では事業費の執行率は98.7%となった。**
- 講座受講者数の実績は計画人数12名に対し17名であり、3年間の講座開催回数は計画通り12回実施したことから、十分な実績であったと判断できる。

## (4) 持続的な森づくり推進事業（人材育成）の効果検証

### ①府内産材コーディネーターについて

#### ◇期待する効果

○次世代につなげる足掛かりの実現

- (1) 受講者の森林管理、府内産材の流通・需要拡大に関する理解度の向上
- (2) 今後の課題解決に向けた意志確認

#### ◆検証方法

- 受講者への聞き取りによる意識調査

#### ◆効果検証の結果（平成30年5月及び令和3年5月実施）ともに12名中10名より聞き取り

##### (1) 受講者の森林管理、府内産材の流通・需要拡大に関する理解度の向上

[講座受講後1年目／H30聞き取り結果]

- 受講者は、府内産材の利用方法や利用の必要性を知ることができ、利用促進に対する意識が出た。（8人）

[講座受講後4年目／R3聞き取り結果]

- 産地の指定はなかったが、講座による川上との繋がりを活かし  
公共事業の公園用資材の納品受注で府内産材を納品 <造作材 約100枚>（1人）
- 川上と協力しコスト、スペック等の条件をクリアして  
大型スポーツ施設に府内産材を納品 <内装(壁)材 約50㎡>（1人）
- 講座による川上とのつながりを活かし、  
私立幼稚園へ大型遊具の材として府内産材を納品 <柱、梁材 約15㎡>（1人）

## (4) 持続的な森づくり推進事業（人材育成）の効果検証

### ①府内産材コーディネーターについて

#### (2) 課題解決に向けた意志確認

[講座受講後1年目／H30 聞取り結果]

- 府内産材は他県産材に比べて供給量が少なく、調達ノウハウ不足について再認識した。(10人)
- 川上と川下のパイプ役である製材所(川中)が、外材の影響で衰退したことから、情報・意見交換がなくなり、川上と川下でお互いの実状が把握できていない。(10人)
- 大阪には小規模な製材所しかなく、供給量が少なく、納期も長くかかり、安定した供給が困難である。(10人)

[講座受講後4年目／R3聞取り結果]

- 講座をとおして、川上との交流をもてたことで、調達ノウハウを得ることが出来るようになった。(8人)
- 川上、川下のつながりがまだ不十分で材の安定供給ができていないため、府内産材を供給するための川上、川中、川下関係者間の情報共有・連携等、さらなるネットワークの強化への取組を継続して実施。(8人)

#### ◆自己評価

- 受講者全員が、府内産材の流通・需要拡大には、川上から川下までのネットワークの構築が必要不可欠と感じており、大半の受講者が、この課題解決に向け、継続して取り組む意志を持っていることが確認できた。
- 府内産材の川上から川下までの関係者の考えを知り、府内産材の流通・需要拡大に関する理解度が向上することにより、具体的に府内産材を納品できる人材が育成された。
- 以上のことから、本事業の目的である府内産材の需要拡大に向けた流通等のコーディネーター役の育成を図ることができた。

## (4) 持続的な森づくり推進事業（人材育成）の効果検証

### ②森林経営リーダーについて

#### ◇期待する効果

○次世代につなげる足掛かりの実現

- (1) 受講者の森林管理、府内産材の流通・需要拡大に関する理解度の向上
- (2) 今後の課題解決に向けた意志確認

#### ◆検証方法

●受講者への聞き取りによる意識調査

◆効果検証の結果 （令和2年3月実施） 17名中、講座最終日の出席者14名より聞き取り

(1) 受講者の森林管理、府内産材の流通・需要拡大に関する理解度の向上

[講座受講後の聞き取り結果]

- 先進地視察で、広葉樹の需要について新たな知見を得ることが出来た。
- 架線集材の知識を得て、現地の作業の選択肢が増えたことで、森林経営に関する視野が広がった。
- 川上から川下の交流により、買手と売手の考えの違いを知るなど、木材流通について学んだことにより森林経営計画の策定に必要な要素が身についた。

(2) 課題解決に向けた意志確認

[講座受講後の聞き取り結果]

- 架線集材の知識は得られたが、技術を身につけるために現場でさらなる経験を積む。

## (4) 持続的な森づくり推進事業（人材育成）の効果検証

### ②森林経営リーダーについて

【事業終了後の取組み状況】（令和3年5月実施） 17名が所属する3事業体に聞取り

#### ◆令和2年度の取組み実績

- 高槻市における風倒木処理業務2箇所において架線集材(1,060m<sup>3</sup>)を実施
- 風倒木被害地にてスイングヤーダ導入を検討  
作業道開設+簡易ウインチで安価・安全に作業できると判断し、導入に至らなかった



高槻市川久保地区

#### ◆令和3年度の計画と今後の展望

- 高槻市における風倒木処理業務2箇所において、引続き架線集材(約1,000m<sup>3</sup>)を予定
- 千早赤阪村において、所有者から依頼のあった伐採現場で架線集材(スイングヤーダ)導入を検討中
- 府内の森林は急峻な斜面地が多く、車両搬出が可能な森林は限られていることから、今後、架線搬出の必要性が高まると思われ、架線システム導入を検討
- 架線集材により、伐採した広葉樹を搬出・有効活用できないか、先進地の岐阜県飛騨市に視察研修を予定

#### ◆自己評価

- 森林経営計画の策定に際しては、木材の需給状況など木材流通に関する知見の必要性、川上から川下までの関係者が意思疎通を図ることの必要性への理解度を向上させることができた。
- 多様な集材方法を学ぶことで、森林経営に関する視野が広がり、間伐や作業道を計画するときにも、絶えず、より効率的な視点で森林経営を考えられる人材を育成できた。
- 以上のことから、本事業の目的である森林管理の中核を担う森林経営リーダーの育成を図ることができた。

大阪府森林環境整備事業 評価シート (最終評価)

担当課名	みどり推進室森づくり課
担当グループ名	森林支援グループ
連絡先	(06)6210-9556

1 事業概要

①概要等	事業実施年度	平成28～令和元年度
	評価年月日	
	施策区分	健全な森林を次世代へつなぐ取組み
	事業名	持続的な森づくり推進事業(人材育成)
	事業概要	森林経営リーダー・府内産材コーディネーター人材育成
②事業の目的	事業開始年度	平成28年度
	林業技術や森林経営等の知識・ノウハウを持ち、地域の森林管理の中核を担う森林経営リーダー(若手従事者(後継者))や川上から川下までの関係者とネットワークを構築し、府内産材に関する流通等のコーディネーター役となる人材を確保し、長期にわたる森林経営の適切な実施や府内産材の需要拡大により、持続的な森づくりを推進する。	

(単位:千円)

③事業費	年度別推移	H28	H29	H30	R1	合計
	当初計画(千円)	1,050	1,050	1,050	1,050	4,200
	現計画(千円)	300	733	609	1,112	2,754
	執行額(千円)	300	733	609	1,767	3,409
④事業の内容	森林経営リーダーや府内産材コーディネーターを確保するため、専門家等による講座や現地研修等を開催する。 ○事業主体:大阪府 ○事業内容等: ①府内産材コーディネーターの育成(10名) ・木材流通業者を対象に木材業経営についての講義を基軸に川上・川下従事者での意見交換を含めた研修を実施。 ・研修回数:3回/年(1年で終了)[H28] ②森林経営リーダーの育成(12名) ・森林経営について先進的な取組みを行う林業従事者や民間企業、森林・木材に関する学識者等への講師派遣の依頼により、森林経営や施業技術、集約化プランニング等の講義や現地研修等を実施。 ・研修回数:4回/年×3か年=全12回[H29～H31で実施]					

2 自己評価

(1)事業実績

⑤実績検証の内容	指標・検証方法		計画	実績	評価区分	理由
	指標	府内産材コーディネーターの育成	10人	12人	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	府内産材コーディネーターは、事業費の執行率28.6%に対し、講座受講者数の実績は計画人数10名に対し12名であり、講座の開催回数は計画通り3回実施 森林経営リーダーは、事業費について、R1はスイングヤーダのレンタル料等で経費が高んだが、通算では事業費の執行率は98.7%となった。講座受講者数の実績は計画人数12名に対し17名であり、3年間の講座開催回数は計画通り12回実施したことから、十分な実績であったと判断できる。
	検証方法	講座受講者数確認				
	指標	森林経営リーダー	12人	17人		
検証方法	講座受講者数確認					

(2)事業効果(最終評価)

⑥効果検証の内容	指標・検証方法		評価区分	理由
	指標	森林管理、府内産材の流通・需要拡大に関する理解度の向上	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	①府内産材コーディネーター 受講者全員が、府内産材の流通・需要拡大には、川上から川下までのネットワークの構築が必要不可欠と感じており、大半の受講者が、この課題解決に向け、継続して取り組む意思を持っていることが確認できた。 府内産材の川上から川下までの関係者の考えを知り、府内産材の流通・需要拡大に関する理解度が向上することにより、具体的に府内産材を納品できる人材が育成された。 以上のことから、本事業の目的である府内産材の需要拡大に向けた流通等のコーディネーター役の育成を図ることができた。 ②森林経営リーダー 森林経営計画の策定に際しては、木材の需給状況など木材流通に関する知見の必要性、川上から川下までの関係者が意思疎通を図ることの必要性への理解度を向上させることができた。 多様な集材方法を学ぶことで、森林経営に関する視野が広がり、間伐や作業道を計画するときにも、絶えず、より効率的な視点で森林経営を考えられる人材を育成できた。 以上のことから、本事業の目的である森林管理の中核を担う森林経営リーダーの育成を図ることができた。
	検証方法	受講者への聞き取りによる意識調査		
	指標	今後の課題解決に向けた意志確認		
検証方法	受講者への聞き取りによる意識調査			

(3)自己評価(総合・最終評価)

⑦自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	事業実績については妥当である。 事業効果については妥当である。

3 第三者評価

⑧第三者評価	大阪府森林等環境整備事業評価審議会の意見
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業実績については妥当である。 <input checked="" type="checkbox"/> 事業効果については妥当である。



# (5) 持続的な森づくり推進事業（未利用木質資源（林地残材等）活用）

## 【目的】

人工林や里山林で伐採後放置された林地残材（未利用材）の有効活用により森林の健全化を図るため、林業事業者や森林所有者、地域で活動する里山保全活動団体等が**林地残材を自ら継続的・安定的に搬出するために必要な仕組みを構築**する。

## 【事業概要】

林業事業者や森林所有者、地域で活動する里山保全活動団体等に対する林地残材搬出用機械等の貸与や搬出された材を活用する木質バイオマス利用事業者等とのマッチングを行い、林地残材を継続的・安定的に搬出する仕組みづくりを担う事業者を選定し、運営を委託。

○事業主体：大阪府

○受託者：特定非営利活動法人 日本森林ボランティア協会  
(提案公募により委託先選定)

○契約期間：平成30年1月31日から令和2年3月16日

○搬出活動地：  
・NPOやボランティア団体が里山保全活動を実施している地区  
・持続的な森づくり推進事業を実施する地区 等

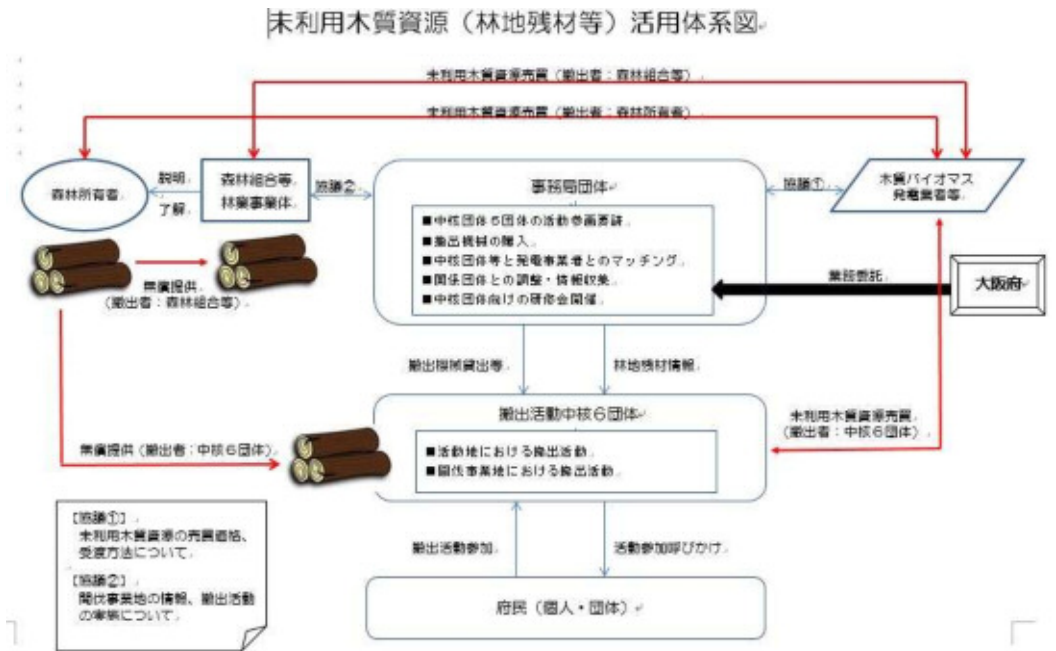
○事業目標（令和元年度）  
・搬出活動参加延べ人数 300人  
・搬出活動中核団体数 6団体

## 【当初事業計画】

単位：千円

年度	全体計画	H28	H29	H30	R1
事業費	24,722	2,851	18,071	2,400	1,400
			H29	H30	R1
参加延べ人数		100	200	300	
中核団体数		2	4	6	

## 《事業の仕組み》



注) 第4回(H29.6.28)にて「仕組み」の構築度合いと「搬出量」が必ずしも連動するものでないことから、評価指標である搬出量は「事業目標」とし、評価指標を「活動参加人数」と「中核団体数」に変更

## (5) 持続的な森づくり推進事業（未利用木質資源（林地残材等）活用）効果検証

### ◆実績検証の結果

#### ●活動中核団体数

	H28	H29	H30	R1	全体	R2(参考)
計画量	—	2	4	6	6団体	—
実績量	—	5	5	6	6団体	6団体
達成割合	—	250.0%	125.0%	100.0%	100.0%	—

#### ●搬出活動参加延べ人数

	H28	H29	H30	R1	全体	R2(参考)
計画量	—	100	200	300	600人	—
実績量	—	75	202	668	945人	163人
達成割合	—	75.0%	101.0%	222.7%	157.5%	—

#### ●事業費（千円）

	H28	H29	H30	R1	全体
計画量	2,851	18,071	2,400	1,400	24,722
実績量	2,255	15,009	2,021	1,329	20,614
執行率	79.1%	83.1%	84.2%	94.9%	83.4%

#### ●搬出材積（m<sup>3</sup>）：林内から広場・集積地まで

	H28	H29	H30	R1	全体	R2(参考)
実績量	—	7	19	17	—	18

#### 【事務局団体】

- ・NPO日本森林ボランティア協会

#### 【活動中核6団体/活動地】

- ・箕面とどろみの森クラブ（箕面市）
- ・茨木里山を守る会（茨木市）
- ・茨木ふるさとの森林づくり隊（茨木市）
- ・島本森のクラブ（島本町）
- ・森林ボランティア団（河内長野市）
- ・アグリリスト永遠の森（千早赤阪村）

#### ◆H28 活動（事務局）について

- ウインチ2台購入、府内4地区にて試行的に搬出活動を実施
- 大学生対象参加型イベント、府民向け講演会、林業推進協議会にて計3回の研修会（活動周知）を実施

#### ◆H29～R1 活動（事務局）について

- 体制づくりのため3カ年長期契約
- 林内車6台、ウインチ4台購入しH28購入分と併せて活動中核団体に貸与
- 現地作業技術指導、研修会の開催
- 中核団体とバイオマス利用事業者とのマッチング及び林業事業体・森林所有者との調整・情報収集

#### ◆R2活動について（R3.6事務局へ聞き取り）

- コロナ禍の影響により搬出含め例年通りの活動ができなかった、R3も同様の可能性あり
- それでも搬出量が令和元年と変わらないのは、搬出技術が向上したことによる

### ◆自己評価

- 事業費の執行率83.4%に対し、搬出活動中核団体数は最終計画数である6団体を確保、搬出活動参加延べ人数は最終計画数300人に対し668人の参加があり、十分な実績であったと判断できる。

## (5) 持続的な森づくり推進事業（未利用木質資源（林地残材等）活用）効果検証

### ◇期待する効果

- 未利用材の継続的・安定的な活用の実現
  - ・関係者の理解度の向上

### ◆検証方法

- 意識調査及び確認
  - ・事務局団体、活動中核団体、森林所有者への意識調査

### ◆事務局団体、活動中核団体、森林所有者への意識調査（R3.5事務局へ聞き取り）

事務局団体	事業開始以前から各団体でも材の搬出は行っていたが、「1本担ぎ出し」の形であり、事業により林内車とロープウィンチを活用できることで、各団体共に継続的・安定的な搬出活動が行えるようになった。
	各団体では本事業による取組みと他の活動を平行して行っており、林地残材等の搬出活動が良い影響（技術力の向上、新しい活動へのきっかけ等）を与えている。
	本事業における各団体の取組みの経過・実績を踏まえると、当面は事務局団体の協力も必要と思われるが、木質バイオマス発電業者等への林地残材の搬出の仕組みは、今後も継続して実施していく。
活動参加者 (中核団体)	事業により活用させてもらっている林内作業車やロープウィンチにより、本格的な材の搬出が可能となり、団体の活動にとって助かっている。
	材の搬出による森林所有者からの反応も良く、今後もロープウィンチを活用して材の搬出に取り組んでいきたい。
	搬出活動は里山整備にも役立っており、今後も材の搬出に意欲的に取り組みたい。
森林所有者	材の搬出が進み丁寧に整備されており、有難い。
	今後は、更に別の場所の森林・竹林整備にも協力を求めてゆきたい。
	搬出に伴い目に見えて分かるほど良い状態に整備してもらった。所有者、活動団体の両方にメリットがあると感じた。

### ◆自己評価

- 聞き取り調査の結果により、事務局団体からは、本事業における活動により各中核団体における搬出活動に技術等の向上が見られ、また、車両や集積場所の確保などの条件を整備することで、事業終了後も木質バイオマス事業者へ材の搬出が継続出来る仕組みが作られたことが確認できた。
- 中核団体については、3年間の活動を通して、搬出活動への意欲的な姿勢が見られ、未利用材の継続的・安定的な活用の実施が確認できた。
- 森林所有者については、未利用材の継続的安定的な活用への取組みに協力的であることが確認できた。

## (5) 持続的な森づくり推進事業（未利用木質資源（林地残材等）活用）効果検証

### ◆事務局団体聞き取り（R3.6）

【持込み・引取り実績（1トン≒1m<sup>3</sup>）】

H29 事務局が2トン車を調達し、試行的に1台分（2m<sup>3</sup>）の材を持込み

H30 トモロス活動地より、事業者の引取りにより8トン車1台分の材を搬出

H30・R1 箕面とどろみの森クラブの集積地に、島本森のクラブが材を持込み

2団体分の材を合せて、事業者の引取りにより8トン車1台分×2回の材を搬出

【持込みの課題】

- ①2~4トン車での持込みは、車両レンタル料・ガソリン代等の**経費負担が大きい**ことに加え、現実的に**中核団体内にトラックを運転できる人材がない**ことが判明
- ②軽トラ等の小型車による持込みは、一度の搬出量が少ないため、複数回に分けて運搬をしなければならず、**時間や燃料費の負担が課題**となる

【引取りの課題】

- ①事業者の専用車両（クラップル付き8トン車）で引き取りに来てもらうため、**集積地の確保**が必要
- ②1回あたりの搬出量を効率良く稼ぐためには、荷台に合うよう**3m材と2m材の組合せ**が必要

## (5) 持続的な森づくり推進事業（未利用木質資源（林地残材等）活用）効果検証

### 【活動収支と活動継続について】

#### ●活動収支

※事業者の引取りにより8トン車1台分の材を出した場合

[収入] 買取価格5,000円/㎡×8.0㎡=40,000円

[支出] 引取り料1回当たり20,000円

収支20,000円/回

1㎡当り2,500円

活動1回当たりの搬出量は、コロナ禍で縮小気味の活動が、再び軌道に乗ってくればコンスタントに1回当たり2㎡程度の搬出が可能とのことであり、1回の活動当り約5,000円の収入となる

#### ●年間活動収支

年間10回（20㎡搬出）活動した場合、約5,000円×10回=50,000円の収入が見込まれ、燃料費・修理部品代等の年間活動費を賄える

⇒各団体の活動が活性化され、積極的な搬出活動に繋がれば、年間の搬出活動に係る経費を賄い、搬出活動の仕組みを継続していくことが可能

#### ◆事業終了後（R3）の搬出活動

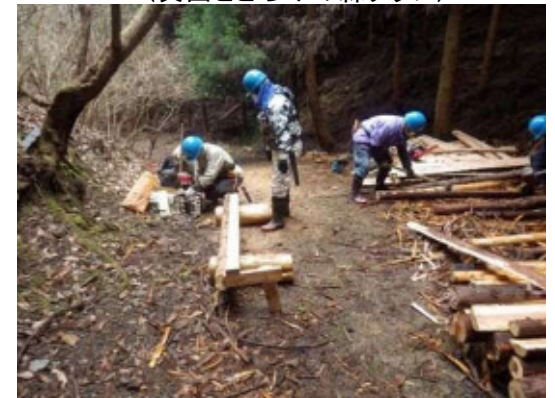
●箕面とどろみの森クラブ・島本森のクラブでは、H30・R1同様に共通の集積地に材を持込み、2団体分の材を合わせて木質バイオマス発電事業者の引取りにより搬出を続ける意向

●トモロスも木質バイオマス発電事業者の引取りによる搬出を再開する意向

⇒事務局が調整し、搬出車両の手配・集積地の確保を行い、中核団体による集積・搬出を継続



R2.11.22能勢町妙見山  
(箕面とどろみの森クラブ)



R3.03.03島本町大沢  
(島本森のクラブ)

## (5) 持続的な森づくり推進事業（未利用木質資源（林地残材等）活用）効果検証

### 波及効果

【その他の林地残材等の活用方法について】（R3.6事務局へ聞き取り）

#### ◆R2・R3の取組みについて

- 茨木里山を守る会は、拠点を置いている里山センター内に集積地を確保  
R2搬出材0.7m<sup>3</sup>で薪25束を生産  
里山センター内に新たにオートキャンプ場・BBQ施設の併設が検討されており、その施設への納品を視野に入れている  
（試算）薪25束/0.7m<sup>3</sup>×300円/束=7,500円/0.7m<sup>3</sup> …1m<sup>3</sup>あたり10,700円
- 茨木ふるさとの森林づくり隊は、里山センター内の集積地を使用してもらい材を搬出  
R2搬出材1.0m<sup>3</sup>を板材にし活動地の棚を作成、R3は搬出材をどうするか未定
- トモロスは、R2は林業家からの協力依頼を受け、  
ヒノキ材78m<sup>3</sup>（の一部）の搬出に携わり、実績や技術力のUPに繋げた  
R3は通常の活動における材の搬出に取り組む一方で、R2と同様の協力依頼にも積極的に取り組んでいく
- アグリフォレスト永遠の森は、R2にスギ間伐材40本3.8m<sup>3</sup>を搬出、薪・小屋づくりに使用  
新たに炭窯を作って、林地残材（広葉樹）を活用した炭作りを開始

⇒各中核団体では、搬出した林地残材、習得した技術を独自に活用し  
事業終了後も、木質バイオマス事業者への納入だけでなく

『林地残材等を自ら継続的・安定的に搬出するために必要な仕組み』を継続していることが  
確認できた

⇒事務局は引続き、全体調整のため情報の集約・提供などの役割を担っていく

#### ◆自己評価

- 聞き取り調査の結果から、各中核団体では事業により培った搬出技術を活用し、事業終了後も継続的に林地残材等の搬出に取り組んでいることが確認できており、今後の活動に大きく期待できる。

大阪府森林環境整備事業 評価シート（最終評価）

担当課名	みどり推進室森づくり課
担当グループ名	森林支援グループ
連絡先	(06)6210-9556

1 事業概要

①概要等	事業実施年度	平成28～令和元年度
	評価年月日	
	施策区分	健全な森林を次世代へつなぐ取組み
	事業名	持続的な森づくり推進事業(未利用木質資源(林地残材等)活用)
	事業概要	搬出体制の構築に向けた事務局の設置・活動状況を周知
②事業の目的	事業開始年度	平成28年度
	人工林や里山林で伐採後放置された林地残材(未利用材)の有効活用により森林の健全化を図るため、林業事業者や森林所有者、地域で活動する里山保全活動団体等が林地残材を自ら断続的・安定的に搬出するために必要な仕組みを構築する。	

(単位:千円)

③事業費	年度別推移	H28	H29	H30	R1	合計
	当初計画(千円)	2,851	18,071	2,400	1,400	24,722
	現計画(千円)	2,255	15,009	2,021	1,400	20,685
	執行額(千円)	2,255	15,009	2,021	1,329	20,614
④事業の内容	林業事業者や森林所有者、地域で活動する里山保全活動団体等に対する林地残材搬出用機械等の貸与や搬出された材を活用する木質バイオマス利用事業者等とのマッチングを行い、林地残材を継続的・安定的に搬出する仕組みづくりを担う事業者を選定し、運営を委託する。					

2 自己評価

(1) 事業実績

⑤実績検証の内容	指標・検証方法		計画	実績	評価区分	理由
	指標	活動中核団体数	6団体	6団体	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	実績の確認により、事業費の執行率83.4%に対し、搬出活動中核団体数については、最終計画数である6団体を確保、搬出活動参加延べ人数については、最終計画数300人に対し、668人の参加があり、十分な実績があったと判断できる。
検証方法	実績の確認					
指標	搬出活動参加延べ人数	600人	945人			
検証方法	実績の確認					

(2) 事業効果(最終評価)

⑥効果検証の内容	指標・検証方法		評価区分	理由
	指標	関係者の理解度の向上	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	聞き取り調査の結果により、事務局団体からは、本事業における活動により各中核団体における搬出活動に技術等の向上が見られ、また、車両や集積場所の確保などの条件を整備することで、事業終了後も木質バイオマス事業者等への材の搬出が継続出来る仕組みが作られたことが確認できた。 中核団体については、3年間の活動を通して、搬出活動への意欲的な姿勢が見られ、未利用材の継続的・安定的な活用の実施が確認できた。 森林所有者については、未利用材の継続的・安定的な活用への取組みに協力的であることが確認できた。 加えて、聞き取り調査の結果から、各中核団体では事業により培った搬出技術を活用し、事業終了後も継続的に林地残材等の搬出に取り組んでいることが確認でき、今後の活動に大きく期待できる結果となった。 以上のことから、本事業の目的である、未利用材の継続的・安定的に搬出するために必要な仕組みの構築について、事業実施の効果があつたといえる。
	検証方法	森林所有者、活動参加者への意識調査		
	指標	搬出活動参加延べ人数(300人)		
	検証方法	実績の確認		
	指標	活動中核団体数(6団体)		
検証方法	実績の確認			

(3) 自己評価(総合・最終評価)

⑦自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	事業実績については妥当である。 事業効果については妥当である。

3 第三者評価

⑧第三者評価	大阪府森林環境整備事業評価審議会の意見
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業実績については妥当である。 <input checked="" type="checkbox"/> 事業効果については妥当である。

## (6) 子育て施設木のぬくもり推進事業

### 【目的】

保育園や幼稚園の子育て施設における木材利用、とりわけ子どもたちが直接触れる床や壁等内装での利用を促進することにより、ストレス緩和や室内の快適性を高めるなど、**子どもの育成環境に良い効果を与えるとともに、森林の大切さや木材に対する理解を深める「木育」の促進**につなげる。

### 【事業概要】

内装（床・壁）木質化等に対して、その必要となる経費を支援する

- 対象施設：大阪府内の幼稚園及び認可保育所、認定こども園、地域型保育事業を行う事業所
- 事業主体：幼稚園等の施設設置者、地域型保育事業の事業主体
- 補助率：1/2（上限2,500千円）
- 補助要件：
  - ・原則、『おおさか材』（認証材）を使用する
  - ・市町村が事業主体となる場合は、公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律に基づく、市町村木材利用方針が策定されていること
  - ・整備後の効果等を把握するためのアンケート調査への協力
  - ・施設の職員や施工事業者が木育リーダーとなり、内装木質化や木材の良さを地域に広くPRする

### 【当初事業計画】

単位：千円

年 度	全体計画	H28	H29	H30	R1
実施箇所数	150	30	40	40	40
事業費	376,500	75,300	100,400	100,400	100,400



# 子育て施設木のぬくもり推進事業の効果検証

## ◆実績検証の結果

### ●木質化した園数

区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	全体
計画量	30園	40園	40園	40園	150園
実績量	38園	31園	31園	31園	131園
達成割合	126.7%	77.5%	77.5%	77.5%	87.3%

### ●おおさか材の使用量

区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	全体
計画量	45m <sup>3</sup>	60m <sup>3</sup>	60m <sup>3</sup>	60m <sup>3</sup>	225m <sup>3</sup>
実績量	83m <sup>3</sup>	66m <sup>3</sup>	44m <sup>3</sup>	55m <sup>3</sup>	248m <sup>3</sup>
達成割合	184.4%	110.0%	73.3%	91.7%	110.2%

### ●木育リーダーの人数

区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	全体
計画量	30人	40人	40人	40人	150人
実績量	42人	42人	42人	41人	167人
達成割合	140.0%	105.0%	105.0%	102.5%	111.3%

### ●事業費(千円)

区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	全体
計画量	75,300	100,400	100,400	100,400	376,500
実績量	67,934	52,231	46,175	55,020	221,360
執行率	90.2%	52.0%	46.0%	54.8%	58.8%

## ◆自己評価

○事業費の執行率は58.8%であった。

○子育て施設関係団体等への綿密な周知により、計画園数の約9割で事業を実施し、おおさか材使用量・木育リーダーの数は計画を上回る実績量であったことから、いずれも十分な実績であったと判断できる。

## 子育て施設木のぬくもり推進事業の効果検証

### ◇期待する効果

#### ○木育活動の推進

- ・子育て施設を利用する府民の方々の木材利用に関する理解度の向上

### ◆検証方法

#### ●木質化及び木育活動の影響による理解度向上の検証

- ・利用者(保護者、施設職員等)へのアンケートの実施
- ・木育リーダーへのアンケートの実施

### 【アンケートの実施(令和3年3~5月取りまとめ)】

1. 対象 平成28年度から令和元年度に本事業を実施した子育て施設 101団体(事業を実施した保育園等のべ131園すべて)
2. 回答者
  - ①施設職員及び施設利用者(保護者) 460名 ※利用者目線の内装木質化の評価や木育の認知度を検証
  - ②木育リーダー 138名 ※施設管理者目線の内装木質化の評価や木育の効果を検証

### 【アンケート項目の追加】

本アンケートでは、子どもたちへの木質化および「木育」の影響・効果についても検証を図るため新たに項目を追加

- ①施設職員・施設利用者 : 子どもたちの「過ごし方に変化があったか」「落ち着いた様子を見ることが増えたか」「施設で過ごすことを楽しみにしている子が増えたか」の3項目
- ②木育リーダー : 上記に加え「触れる・過ごす機会が多くなったか」「木材や森林に興味・関心を抱くようになったか」「成長にとって良い環境になったか」「木育」が子どもたちにとって有効であるか」の7項目

## 子育て施設木のぬくもり推進事業の効果検証

### ◆利用者(保護者、施設職員等)へのアンケート結果

①施設職員及び施設利用者(保護者) 回答		「とても思う」 「思う」
木質化による効果	QⅡ-2 木質化や木製品に対する関心が高まった	90.0%
	QⅡ-3 今後も施設で床や壁等に木を使う取組みを進めるべきと思う	94.2%
	QⅡ-5 家庭でも、床や壁等に木を使いたいと思う	88.1%
「木育」による効果	QⅢ-4 「木育」を通して、木質化や木製品、森林に関心をもったと思う	82.4%
【新規】 木質化や「木育」による子どもたちへの影響	QⅣ-2 子どもたちが落ち着いた様子を見せることが増えたと思う	64.8%
	QⅣ-3 施設で過ごすことを楽しみにしている子が増えたと思う	68.9%

### ◆木育リーダーへのアンケート結果

②木育リーダー 回答		「とても思う」 「思う」
木質化による効果	QⅠ-3 今後も施設で床や壁等に木を使う取組みを進めていきたいと思う	97.8%
	QⅠ-5 家庭でも、床や壁等に木を使いたいと思う	91.3%
【新規】 木質化や「木育」による子どもたちへの影響	QⅢ-4 子どもたちが落ち着いた様子を見せることが増えたと思う	76.1%
	QⅢ-5 施設で過ごすことを楽しみにしている子が増えたと思う	76.1%
	QⅢ-6 木材や森林に子どもたちが興味・関心を抱くようになったと思う	67.4%

## 子育て施設木のぬくもり推進事業の効果検証（施設職員及び施設利用者（保護者））

### ◆利用者（保護者、施設職員等）へのアンケート結果

自由意見 ①施設職員及び施設利用者（保護者） ※460名のうち140名（特になし除く）が回答

#### ●内装木質化に対する感想

- ・お部屋全体も子どもの表情も明るくなる、つい裸足で過ごしたくなる、アレルギーの子どもが増えているので自然な素材は良いと思う（42件）
- ・成長する手助けになる、子どもの五感を刺激する（14件）
- ・工事の現場を見学できたりカンナ削り体験に参加できたり特別な経験を得た、子どものときの体験や感覚は一生ものだと思う、木に興味を持つ良いきっかけ（12件）

#### ●「木育」に関する感想

- ・環境保護と子どもたちのために今後も取組を継続、子どもが自然に触れる機会として木育は非常に良い取り組みだと思う（32件）

#### ●その他

- ・今まで以上に木材を身近に感じられたり触れる機会が増えれば（11件）
- ・絵具や墨を良く利用するのでメンテナンスが大変、メンテナンスを熟知していくことが大事（10件）
- ・子どもたちが木を使ったおもちゃを作れる機会があれば（7件）
- ・どんどんアピールすべき（6件）
- ・気をつけないと滑りやすい（3件）
- ・いいものはやはり高価になります、低コストであれば（2件）
- ・園で風邪や病気にかかることが少なくなった（1件）

## 子育て施設木のぬくもり推進事業の効果検証 (木育リーダー)

### ◆木育リーダーへのアンケート結果

自由意見 ②木育リーダー ※138名のうち70名(特になし除く)が回答

#### ●内装木質化に対する感想

- ・子どもがリラックスした様子になっていく気がする、大人にも癒しの効果があると思う(6件)
- ・保護者や見学者は好意的、園舎への印象も良いという評価が多くありました(4件)

#### ●「木育」に関する感想

- ・園の行事で親子での「木育」に取組み木材に触れる体験をして頂いたところ、とても好評(9件)

#### ●その他

- ・木製のおもちゃを作りたい、木に触れる環境がもっとあればいいな(31件)
- ・制度の充実、延長をして欲しい(13件)
- ・費用面は施設の長として考えにいけない訳にはいかないので悩みます(3件)
- ・傷や汚れに強ければ良いと思う(2件)
- ・転倒時のケガが心配(2件)

## 子育て施設木のぬくもり推進事業の効果検証

### ◆自己評価

●施設職員及び施設利用者(保護者)の、90.0%が木質化をとおして木質化や木製品に対する関心が高まったと、88.1%が家庭でも床や壁等に木を使いたい、94.2%が今後も施設で木を使った取組みを進めていきたいと回答している。また木育リーダーにおいても、家庭でも木を使いたい、今後も施設で木を使った取組みを進めていきたいとそれぞれ91.3%、97.8%が回答している。

更に、施設職員及び施設利用者(保護者)の82.4%が「木育」を通して、木質化や木製品、森林に関心を持ったと回答していることから、子育て施設の利用者は『木材利用に関する理解度が向上したこと』

『本事業の実施が理解度向上に有効であること』が確認できた。

●施設職員及び施設利用者(保護者)の、64.8%が木質化や「木育」を体験して、子どもたちが落ち着いた様子を見せることが増えた、68.9%が施設で過ごすことを楽しみにしている子が増えたと回答している。

また木育リーダーにおいても両項目共に76.1%が増えたと回答している。更に、木育リーダーの67.4%が木質化や「木育」を体験したことで木材や森林に対し子どもたちが興味・関心を抱くようになった、97.1%が施設の木質化が子どもたちの成長にとって良い環境になったと回答していることから、

『子どもたちにとっても木材利用への理解度向上に有効であること』

『子どもたちへの生育環境への効果があること』が確認できた。

大阪府森林環境整備事業 評価シート (最終評価)

担当課名	みどり推進室森づくり課
担当グループ名	森林支援グループ
連絡先	(06)6210-9556

1 事業概要

①概要等	事業実施年度	平成28～令和元年度
	評価年月日	
	施策区分	健全な森林を次世代へつなぐ取組み
	事業名	子育て施設木のぬくもり推進事業
	事業概要	木育・内装木質化推進
	事業開始年度	平成28年度
②事業の目的	幼稚園、保育所、認定子ども園の子育て施設を対象に、床や壁など、内装の木質化を支援することにより、子どもの生育環境の充実を図るとともに、子どものうちから木材に対する理解を深める「木育」の促進、及び府内の森林資源の循環利用による健全な森林の保全に資することを目的とする。	

(単位:千円)

③事業費	年度別推移	H28	H29	H30	R1	合計
	当初計画(千円)	75,300	100,400	100,400	100,400	376,500
	現計画(千円)	67,934	52,231	46,175	64,150	230,490
	執行額(千円)	67,934	52,231	46,175	55,020	221,360
④事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内装(床・壁)木質化に対して、その必要となる経費を支援する <ul style="list-style-type: none"> <li>○対象施設:府内の幼稚園及び認可保育所(認定子ども園を含む)</li> <li>○補助率:1/2(上限2,500千円)</li> <li>○補助要件: <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則、『おおさか材』(認証材)を使用する</li> <li>・施設の職員等が木育リーダーとなり、内装木質化や木材の良さを地域に広くPRする</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>					

2 自己評価

(1)事業実績

⑤実績検証の内容	指標・検証方法		計画	実績	評価区分	理由
	指標	子育て施設の内装木質化	150園	131園	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	事業費の執行率は58.8%であった。実績については、子育て施設関係団体等への綿密な周知により、計画園数の約9割で実施するとともに、おおさか材使用量・木育リーダーの数は計画を上回る実績であったことから、おおさか材の利用を促進し、かつ、木育活動の中核となる職員をより多く確保できており、十分な実績であったと判断できる。
	検証方法	木質化した園数				
	指標	おおさか材使用量	225㎡	248㎡		
	検証方法	おおさか材使用量の確認				
	指標	木育リーダーの人数	150人	167人		
検証方法	木育リーダーの人数の確認					

(2)事業効果(最終評価)

⑥効果検証の内容	指標・検証方法		評価区分	理由
	指標	利用者の木材利用に関する理解度の向上	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	施設職員及び施設利用者(保護者)の、90.0%が木質化をとおして木質化や木製品に対する関心が高まったと、88.1%が家庭でも床や壁等に木を使いたい、94.2%が今後も施設で木を使った取組みを進めていきたいと回答している。また木育リーダーにおいても、家庭でも木を使いたい、今後も施設で木を使った取組みを進めていきたいとそれぞれ91.3%、97.8%が回答していることから、子育て施設の利用者は『木材利用に関する理解度が向上したこと』『本事業の実施が理解度向上に有効であること』が確認できた。
	検証方法	アンケートの実施		
	指標	施設職員及び施設利用者(保護者)の、64.8%が木質化や「木育」を体験して、子どもたちが落ち着いた様子を見ることが増えた、68.9%が施設で過ごすことを楽しみにしている子が増えたと回答している。また木育リーダーにおいても両項目共に76.1%が増えたと回答していることから、『子どもたちにとっても木材利用への理解度向上に有効であること』『子どもたちへの生育環境への効果があること』が確認できた。		
	検証方法			
	指標			
検証方法				

(3)自己評価(総合・最終評価)

⑦自己評価	総合評価	理由
<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない		事業実績については概ね妥当である。 事業効果については妥当である。

3 第三者評価

⑧第三者評価	大阪府森林等環境整備事業評価審議会の意見	
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業実績については妥当である。 <input checked="" type="checkbox"/> 事業効果については妥当である。	

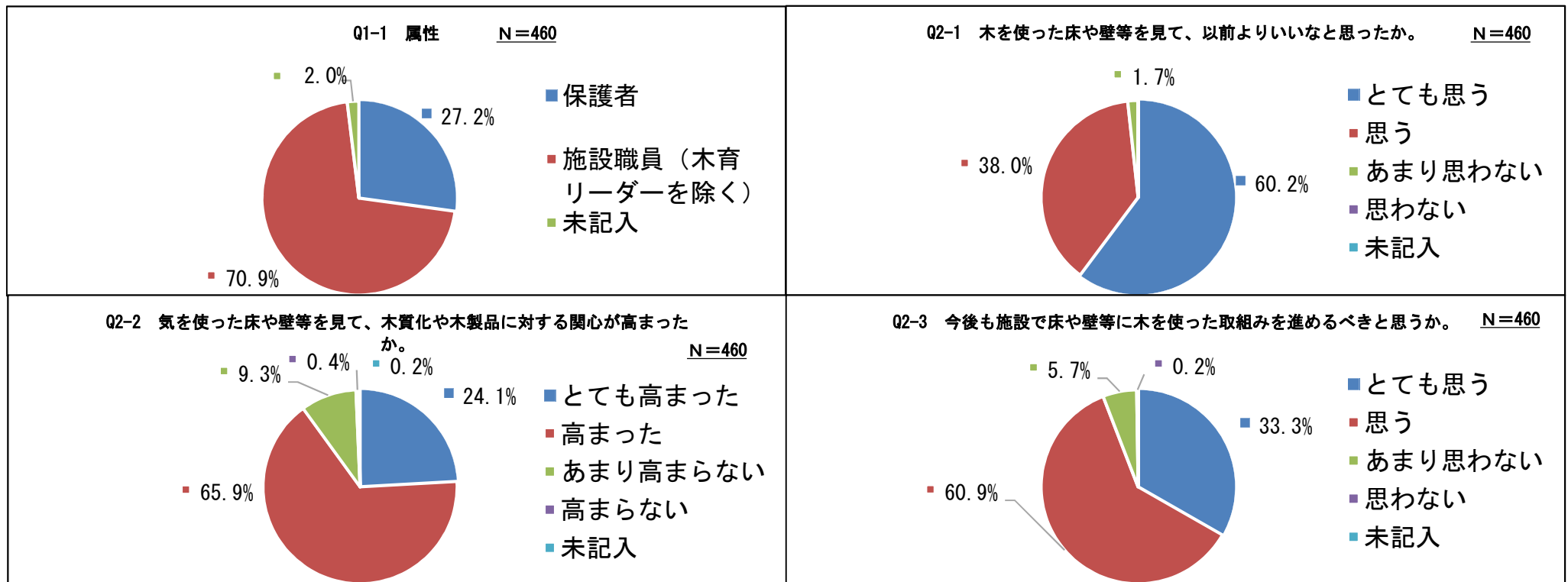




# 子育て施設木のぬくもり推進事業の効果検証（施設職員及び施設利用者（保護者））

<p style="text-align: right;">令和 年 月 日 【保護者様】【施設職員（木育リーダーを除く）様】用</p> <p>QⅢ. 保育室の床や壁等を木質化したことに併せて実施されている、「木育」について、該当する番号に○を付けてください。</p> <p>1 「木育」という言葉についてご存知ですか。</p> <p>①知っている ②知らない</p> <p>2 1で「知っている」と答えられた方にお聞きします。いつお知りになりましたか。</p> <p>①以前から知っていた ②この施設の木育の取組みの時に知った ③この施設の木育の取組みの時ではなく最近知った</p> <p>3 「木育」の内容についてご存知ですか。</p> <p>①よく知っている ②知っている ③言葉だけ知っている ④知らない</p> <p>4 「木育」を通して、木質化、木製品や森林に関心を持ちましたか。</p> <p>①とても持った ②持った ③あまり持っていない ④持っていない</p> <p>QⅣ. 施設の木質化や「木育」の子どもたちへの影響について、該当する番号に○を付けてください。</p> <p><b>新規項目</b></p> <p>1 施設の木質化や「木育」をとおして、子どもたちの過ごし方に変化があったと思いますか。</p> <p>①とても思う ②思う ③あまり思わない ④思わない</p> <p style="text-align: center;">3 <span style="float: right;">次へ⇒</span></p>	<p style="text-align: right;">令和 年 月 日 【保護者様】【施設職員（木育リーダーを除く）様】用</p> <p><b>新規項目</b></p> <p>2 施設の木質化や「木育」を体験して、子どもたちが落ち着ついた様子を見ることが増えたと思いますか。</p> <p>①とても思う ②思う ③あまり思わない ④思わない</p> <p><b>新規項目</b></p> <p>3 施設の木質化や「木育」を体験して、施設で過ごすことを楽しみにしている子どもたちが増えたと思いますか。</p> <p>①とても思う ②思う ③あまり思わない ④思わない</p> <p>4 「木育」は子どもたちに有効だと思いますか。</p> <p>①とても有効だと思う ②有効だと思う ③あまり有効と思わない ④有効と思わない ⑤よく知らないのでわからない</p> <p>QⅤ. 最後に、大阪府の木材利用に関する取組みについて、何かご意見、ご提案がございましたら、ご自由にご記入ください。</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p style="text-align: center;">アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。</p> <p style="text-align: center;">4</p>
---	--

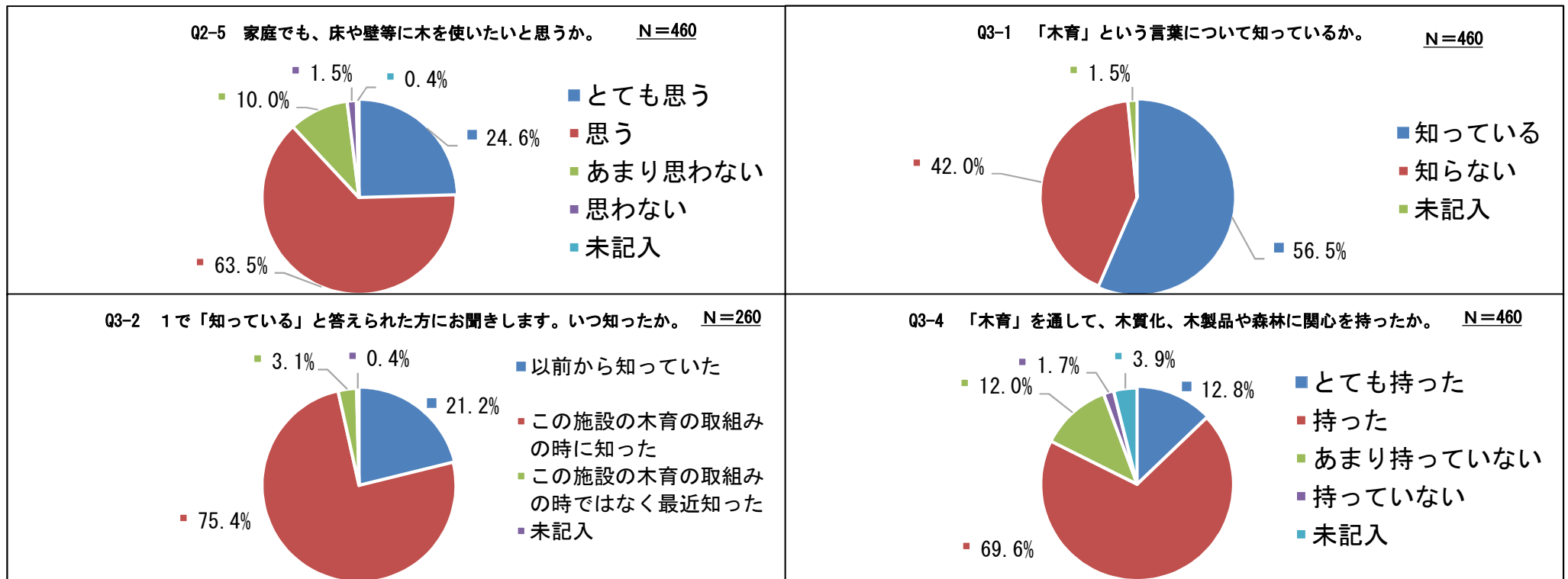
## 子育て施設木のぬくもり推進事業の効果検証（施設職員及び施設利用者（保護者））



- ・木を使った床や壁等を見て、以前よりいいと回答したのは「とても思う(60.2%)」「思う(38.0%)」併せて98.2%。
- ・木を使った床や壁等を見て、木質化や木製品に対する関心が高まったと回答したのは「とても高まった(24.1%)」「高まった(65.9%)」併せて90.0%。
- ・今後も施設で床や壁等に木を使う取組みをすすめるべきと回答したのは「とても思う(33.3%)」「思う(60.9%)」併せて94.2%。

「あまり思わない(5.6%)」「思わない(0.2%)」併せて5.8%が(複数)回答した理由で、1番多いのが「木のささくれなどによるケガが心配(100%)」で、2番目が「汚れた時の対処など、メンテナンスが大変92.6%)」3番目が「木造化する費用が高い(33.3%)」。

# 子育て施設木のぬくもり推進事業の効果検証 (施設職員及び施設利用者(保護者))

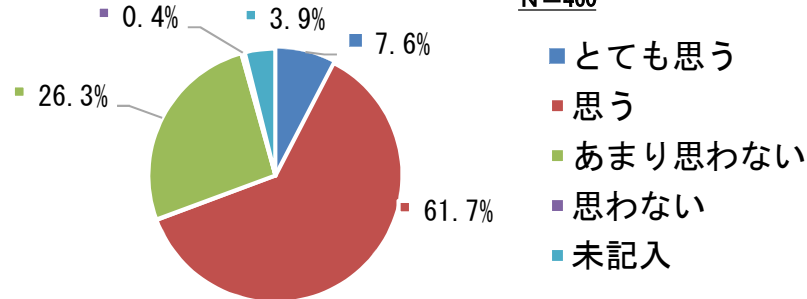


- ・家庭でも、床や壁等に木を使いたいと回答したのは「とても思う(24.6%)」「思う(63.5%)」を併せて88.1%。
- ・「木育」を「知っている(56.5%)」と回答した者のうち「この施設の木育の取組みの時に知った」のは75.4%。
- ・「木育」を通して、木質化や木製品に関心を持ったと回答したのは「とても持った(12.8%)」「持った(69.6%)」を併せて82.4%。

# 子育て施設木のぬくもり推進事業の効果検証 (施設職員及び施設利用者(保護者))

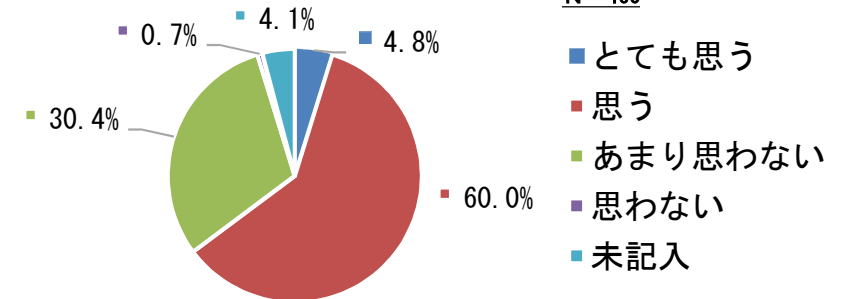
新規項目

Q4-1 施設の木質化や「木育」を通して、子どもたちの過ごし方に変化があったと思うか。 N=460



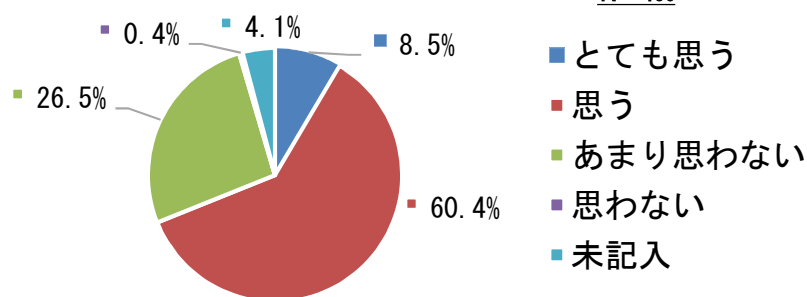
新規項目

Q4-2 施設の木質化や「木育」を体験して、子どもたちが落ち着いた様子を見ることが増えたと思うか。 N=460

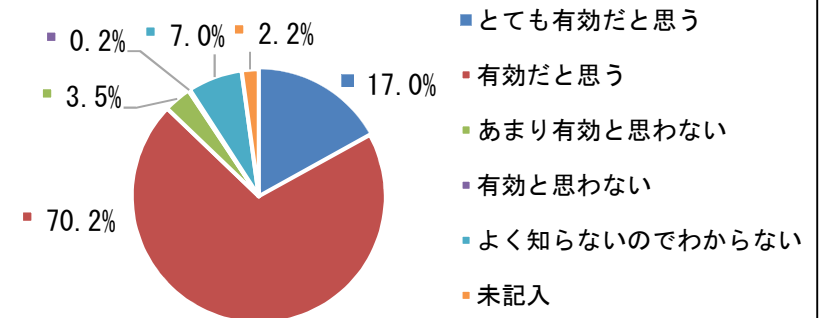


新規項目

Q4-3 施設の木質化や「木育」を体験して、施設で過ごすことを楽しみにしている子どもたちが増えたと思うか。 N=460



Q4-4 「木育」は子どもたちに有効だと思うか。 N=460



- ・[新規] 施設の木質化や「木育」を通して、子どもたちの過ごし方に変化があったと回答したのは「とても思う (7.6%)」「思う(61.7%)」を併せて69.3%。
- ・[新規] 施設の木質化や「木育」を体験して、子どもたちが落ち着いた様子を見ることが増えたと回答したのは「とても思う (4.8%)」「思う(60.0%)」を併せて64.8%。
- ・[新規] 施設の木質化や「木育」を体験して、施設で過ごすことを楽しみにしている子が増えたと回答したのは「とても思う (8.5%)」「思う(60.4%)」を併せて68.9%。

# 子育て施設木のぬくもり推進事業の効果検証 (木育リーダー)

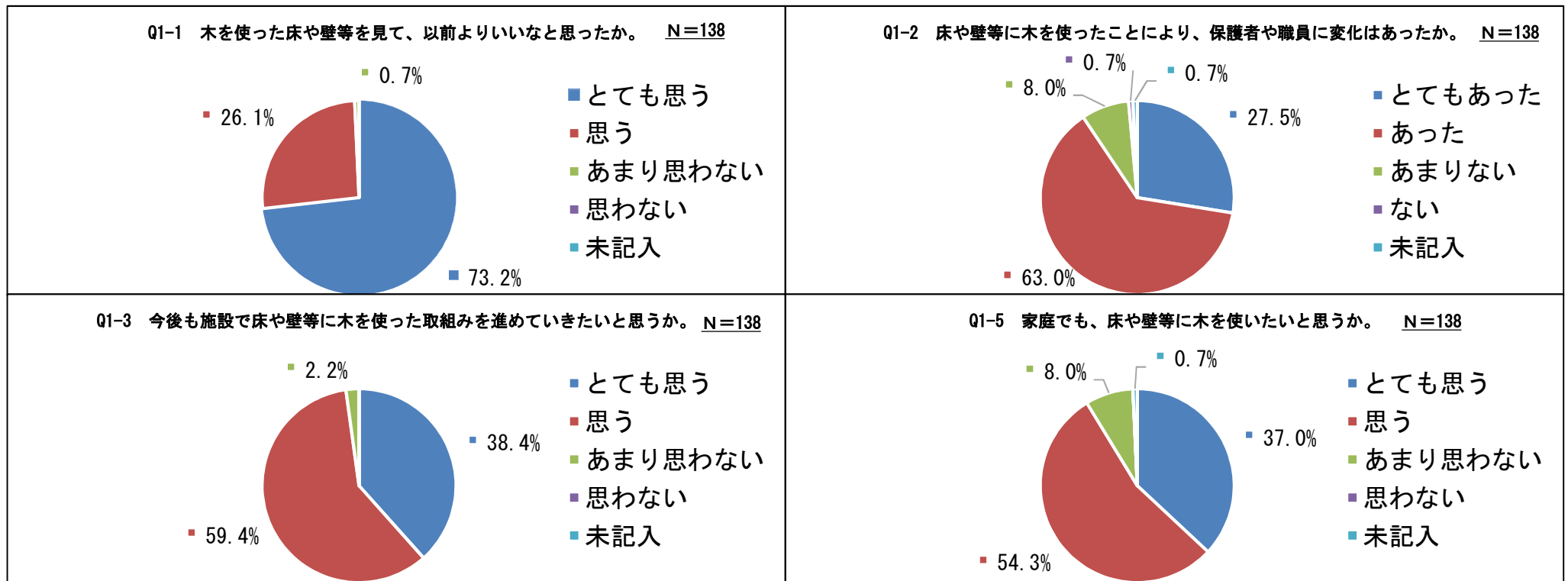
## ■アンケート結果の詳細

<p style="text-align: right;">令和 年 月 日 【木育リーダー様】用</p> <p style="text-align: center;"><b>『子育て施設木のぬくもり推進事業』実施に関するアンケート</b></p> <p>大阪府では、自然災害から暮らしを守り、健全な森林を次世代へつなぐため、平成28年4月から4年間、「森林環境税」による新たな森林保全の取組みを実施しており、その取組みの一つとして、幼稚園や保育所、認定こども園などの子育て施設を対象に、床や壁等をおおさか材（大阪府内で生産、加工された木材）で木質化する『子育て施設木のぬくもり推進事業』を実施してまいりました。</p> <p>本アンケートは、本事業により保育室等の床や壁等を木質化した子育て施設の『木育リーダー』の皆さまに、感想をお伺いするものです。</p> <p>なお、本アンケートでご記入いただいた内容は、本アンケートに関する目的のみに利用し、他の目的には使用いたしません。また、個人を特定することもいたしません。</p> <p style="text-align: right;">大阪府環境農林水産部みどり推進室森づくり課 森林支援グループ TEL : 06-6210-9556 FAX : 06-6210-9551 MAIL : midorikankyo-g10@sbox.pref.osaka.lg.jp</p> <p>QⅠ. 保育室等の床や壁等を木質化したことに対する、あなたの感想について、該当する番号に○を付けてください。</p> <p>1 木を使った床や壁等を見て、あなたは以前よりいいなと思いましたが。 ①とても思う ②思う ③あまり思わない ④思わない</p> <p>2 床や壁等に木を使ったことにより、保護者や職員に変化がありましたか。 ①とてもあった ②あった ③あまりない ④ない</p> <p style="text-align: right;">1 <span style="background-color: black; color: white; padding: 2px 10px;">次へ⇒</span></p>	<p style="text-align: right;">令和 年 月 日 【木育リーダー様】用</p> <p>3 今後も施設で床や壁等に木を使った取組みを進めていきたいと思いませんか。 <input type="checkbox"/>とても思う <input type="checkbox"/>思う <input type="checkbox"/>あまり思わない <input type="checkbox"/>思わない</p> <p>4 3で「あまり思わない」「思わない」と答えられた方にお聞きします。その理由は何ですか（複数回答可）。</p> <p>①保護者や職員の評判が良くない ②木のささくれなどによるケガが心配 ③汚れた時の対処など、メンテナンスが大変 ④工事中に部屋が使えないことへの対応が大変 ⑤補助金申請の書類作成が大変 ⑥木造化する費用が高い ⑦気軽に相談できる業者等の情報が無い ⑧その他（                                ）</p> <p>5 ご家庭でも、床や壁等に木を使いたいと思いませんか。 <input type="checkbox"/>とても思う <input type="checkbox"/>思う <input type="checkbox"/>あまり思わない <input type="checkbox"/>思わない</p> <p>QⅡ. 保育室の床や壁等を木質化したことに併せて取組んでもらっている、「木育」について、該当する番号に○を付けてください。</p> <p>1 取組みを始める前から「木育」についてご存知でしたか。 ①以前から知っていた ②この施設での木育の取組みを通して知った</p> <p style="text-align: right;">2 <span style="background-color: black; color: white; padding: 2px 10px;">次へ⇒</span></p>	<p style="text-align: right;">令和 年 月 日 【木育リーダー様】用</p> <p>2 「木育」の取組みは続けていくべきだと思いますか。 ①とても思う ②思う ③あまり思わない ④思わない</p> <p>3 2で「あまり思わない」「思わない」と答えられた方にお聞きします。その理由は何ですか（複数回答可）。</p> <p>①取組む時間がない ②子どもたちの反応がよくない ③保護者の反応がよくない ④取組んでみて有効性をあまり感じなかった ⑤その他（                                        ）</p> <p>4 「木育」や内装に木を使った取組みを他の施設や地域に広くPRしていこうと思われていますか。 ①とても思っている ②思っている ③あまり思っていない ④思っていない</p> <p>QⅢ. 施設の木質化や「木育」の子どもたちへの影響について、該当する番号に○を付けてください。</p> <p style="background-color: #ffe6e6; padding: 2px;">新規項目</p> <p>1 施設の木質化した空間に子どもたちが触れる・過ごす機会が多くなったと思いませんか。 ①とても思う ②思う ③あまり思わない ④思わない</p> <p style="text-align: right;">3 <span style="background-color: black; color: white; padding: 2px 10px;">次へ⇒</span></p>
---	---	--

# 子育て施設木のぬくもり推進事業の効果検証 (木育リーダー)

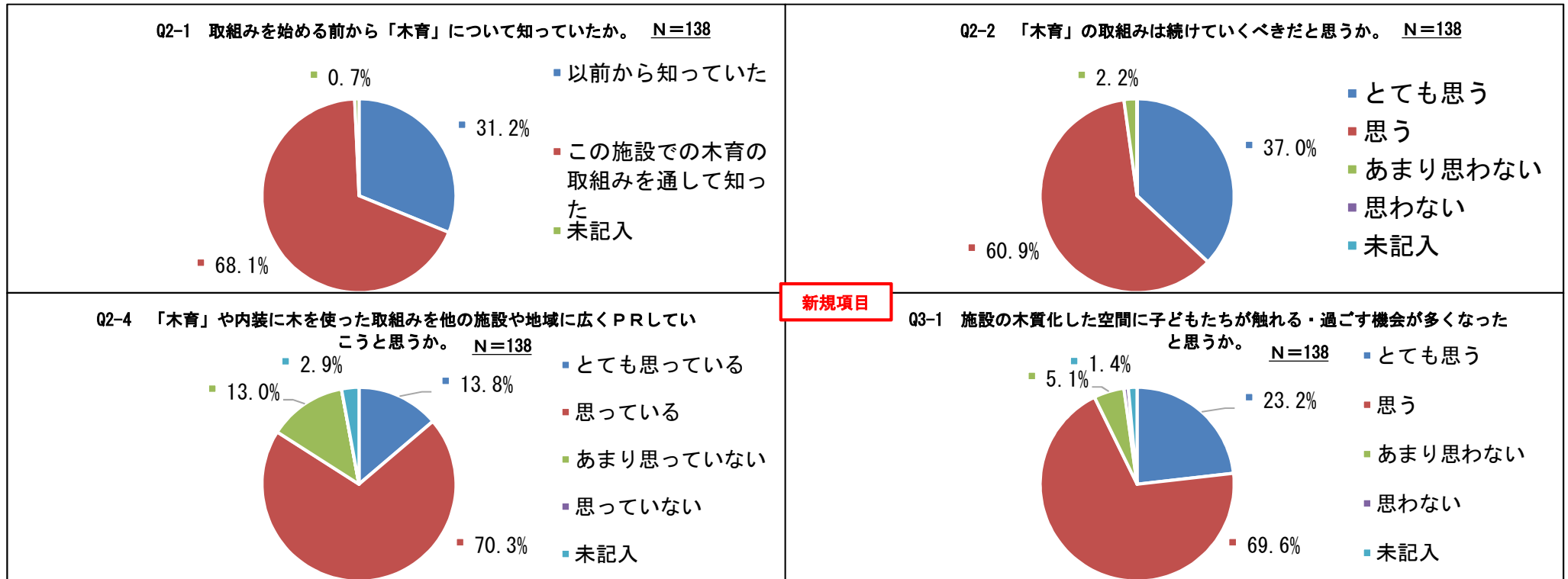
<p style="text-align: right;">令和 年 月 日 【木育リーダー様】用</p> <p><b>新規項目</b> 2 施設の木質化や「木育」をとおして、子どもたちの過ごし方に変化があったと思いますか。 ①とても思う ②思う ③あまり思わない ④思わない</p> <p><b>新規項目</b> 3 2で「とても思う」「思う」と答えられた方にお聞きします。具体的にその内容をお聞かせください。 _____ _____</p> <p><b>新規項目</b> 4 施設の木質化や「木育」を体験して、子どもたちが落ち着ついた様子を見ることが増えたと思いますか。 ①とても思う ②思う ③あまり思わない ④思わない</p> <p><b>新規項目</b> 5 施設の木質化や「木育」を体験して、施設で過ごすことを楽しみにしている子どもたちが増えたと思いますか。 ①とても思う ②思う ③あまり思わない ④思わない</p> <p style="text-align: right;">次へ⇒</p> <p style="text-align: center;">4</p>	<p style="text-align: right;">令和 年 月 日 【木育リーダー様】用</p> <p><b>新規項目</b> 6 施設の木質化や「木育」を体験して、木材や森林に対し子どもたちが興味・関心を抱くようになったと思いますか。 ①とても思う ②思う ③あまり思わない ④思わない</p> <p><b>新規項目</b> 7 施設の木質化は子どもたちの成長にとって良い環境になったと思いますか。 ①とても思う ②思う ③あまり思わない ④思わない</p> <p><b>新規項目</b> 8 「木育」は子どもたちに有効だと思いますか。 ①とても有効だと思う ②有効だと思う ③あまり有効と思わない ④有効と思わない ⑤よく知らないのでわからない</p> <p>Ⅳ. 最後に、大阪府の木材利用に関する取組みについて、何かご意見、ご提案がございましたら、ご自由にご記入ください。 _____ _____ _____</p> <p style="text-align: center;">アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。</p> <p style="text-align: center;">5</p>
--	---

## 子育て施設木のぬくもり推進事業の効果検証 (木育リーダー)



- ・床や壁等に木を使ったことにより、保護者や職員に変化があったと回答したのは「とてもあった(27.5%)」「あった(63.0%)」を併せて90.5%。
- ・今後も施設で床や壁等に木を使った取組みを進めていきたいとの回答したのは「とても思う(38.4%)」「思う(59.4%)」を併せて97.8%。
- ・家庭でも、床や壁等に木を使いたいと思うと回答したのは「とても思う(37.0%)」「思う(54.3%)」を併せて91.3%。

## 子育て施設木のぬくもり推進事業の効果検証 (木育リーダー)



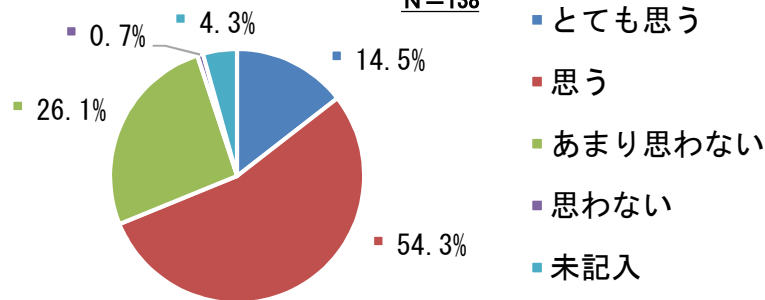
- ・施設での取組みを通して「木育」を知ったと回答したのは、68.1%。
- ・「木育」の取組みを今後も続けていくべきと回答したのは「とても思う(37.0%)」「思う(60.9%)」を併せて 97.9%。
- ・「木育」や内装に木を使った取組みを他の施設や地域に広くPRしていこうと思っていると回答したのは「とても思っている(13.8%)」「思っている(70.3%)」を併せて84.1%。
- ・**[新規]** 施設の木質化した空間に子どもたちが触れる・過ごす機会が多くなったと回答したのは「とても思っている(23.2%)」「思っている(69.6%)」を併せて92.8%。



# 子育て施設木のぬくもり推進事業の効果検証 (木育リーダー)

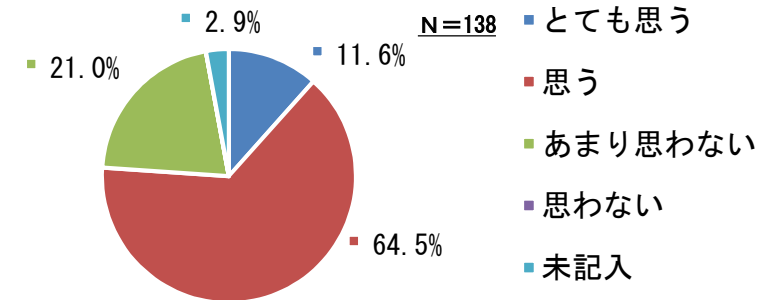
新規項目

Q3-2 施設の木質化や「木育」を通して子どもたちの過ごし方に変化があったと思うか。 N=138



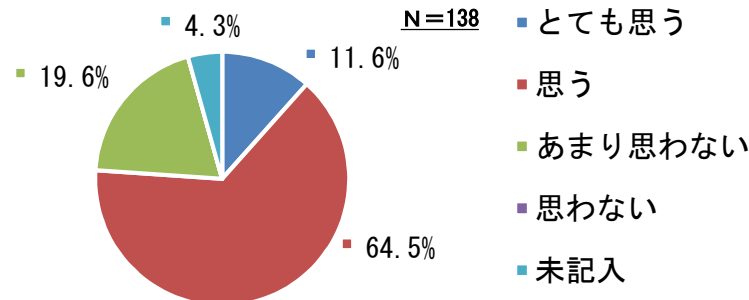
新規項目

Q3-4 施設の木質化や「木育」を体験して、子どもたちが落ち着いた様子を見せることが増えたと思うか。 N=138



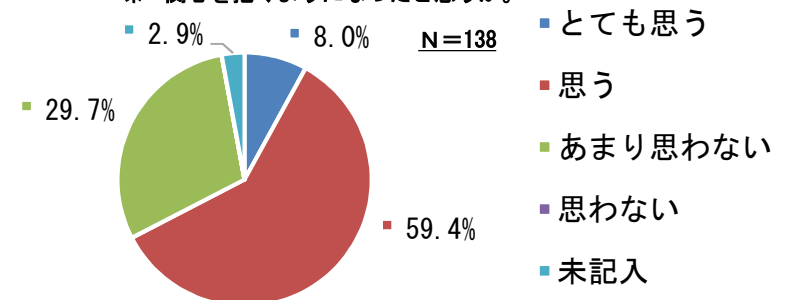
新規項目

Q3-5 施設の木質化や「木育」を体験して、施設で過ごすことを楽しみにしている子どもたちが増えたと思うか。 N=138



新規項目

Q3-6 施設の木質化や「木育」を体験して、木材や森林に対し子どもたちが興味・関心を抱くようになったと思うか。 N=138

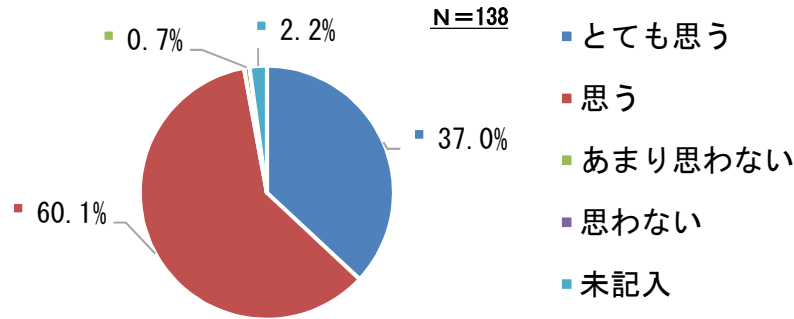


- ・[新規] 施設の木質化や「木育」を体験することで、落ち着いた様子を見せることが増えたと回答したのは「とても思う(11.6%)」「思う(64.5%)」を併せて76.1%。
- ・[新規] 施設の木質化や「木育」を体験することで、施設で過ごすことを楽しみにしている子どもたちが増えたと回答したのは「とても思う(11.6%)」「思う(64.5%)」を併せて76.1%。
- ・[新規] 施設の木質化や「木育」を体験することで、木材や森林に子どもたちが興味・関心を抱くようになったと回答したのは「とても思う(8.0%)」「思う(59.4%)」を併せて67.4%。

## 子育て施設木のぬくもり推進事業の効果検証 (木育リーダー)

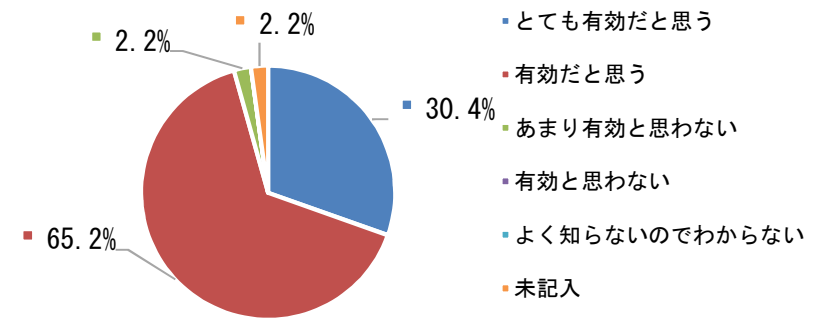
### 新規項目

Q3-7 施設の木質化は子どもたちの成長にとって良い環境になったと思うか。



### 新規項目

Q3-8 「木育」は子どもたちに有効だと思うか。 N=138



- ・**[新規]** 施設の木質化が子どもたちの成長にとって良い環境になったと回答したのは「とても思う(37.0%)」「思う(60.1%)」を併せて97.1%。
- ・**[新規]** 「木育」が子どもたちにとって有効であると回答したのは「とても思う(30.4%)」「思う(65.2%)」を併せて95.6%。

前ページの

- ・**[新規]** 施設の木質化や「木育」を通して、子どもたちの過ごし方に変化があったと回答したのは「とても思う(14.5%)」「思う(54.3%)」を併せて69.8%の具体的な内容は

- 木に対して
  - 散歩のとき木切れやドングリを捨ってくるようになった
  - 木の節や切り株(年輪)を見たり、木に興味を持つようになった
- 内面の変化
  - クラス全体の落ち着きが少し増した
  - 香りに気づいたり、木目をなぞったり、五感を活用している
- 行動の変化
  - 図書室に足を運んでくれる子どもが増えた
  - 裸足になりたがる(冬でも寒がらない)、木の床をころころ転がる など

## (7) 森林環境税（平成 28 年度～令和元年度徴収分）の徴収・執行額

税込・執行額の推移（令和 2 年度繰越分の税込を含む）

	①税込額	②執行額	①税込-②執行 (累計)	備 考
平成 27 年度		39,559 千円	▲39,559 千円	システム改修・広報費用等
平成 28 年度	1,041,638 千円	762,716 千円	239,363 千円	
平成 29 年度	1,188,879 千円	906,898 千円	521,344 千円	
平成 30 年度	1,208,335 千円	1,056,660 千円	673,019 千円	
令和 1 年度	1,235,554 千円	1,419,513 千円	489,060 千円	
令和 2 年度	(※1) 149,018 千円	529,889 千円	108,189 千円	
計	4,823,424 千円	4,715,235 千円	108,189 千円	

〔備考〕※1 令和 2 年度繰越分の税込（2 ヶ月分）

## ◆自己評価

- 税込額 4,823,424 千円に対し執行額、4,715,235 千円となり税込に対し 97.8%の執行となった。
- 税込の残額 108,189 千円については徴税の趣旨を鑑みて森林環境税を財源とした、森林防災・減災対策に充当する。